

研究区分	教員特別研究推進（独創・先進的研究）
------	--------------------

研 究 テーマ	日本と韓国の保育者が捉える「保育職の魅力」についての検討				
研究組織	代 表 者	所属・職名	短期大学部・助教	氏名	崔 美美
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	短期大学部・助教	氏名	崔 美美

講演題目
保育者が捉える「保育職の魅力」についての検討
研究の目的、成果及び今後の展望
○ 研究目的 2000年以降、乳幼児期の重要性が法律上に示された。乳幼児期に対する保育の重要性が明文化されることで、社会からの関心が高まり、乳幼児に係る国や自治体による予算が徐々に増えてきた。そして、乳幼児教育及び保育を担う人材の確保のために、保育者の資質及び専門性の向上に注目して取り組んできたことが明らかになった（崔、秋田、2021）。保育現場、指定保育士養成施設、自治体、こども家庭庁それぞれにおいて、職場体験の提供やイベント開催、情報発信などの魅力発信に取り組んでいる。また、働きやすい職場環境づくり等の施策の更なる充実を図るとともに、各層における課題（課題：保育士・保育の現場へのネガティブなイメージ。現役保育士や求職者へ保育に関する情報が届いていないなど）に応じた魅力発信の取組を進めることとした（こども家庭庁、2024）。本研究では、保育者自身の資質能力の向上に向けた取組を検討することで、保育者が捉える保育職の魅力を明らかにすることを目的とする。 ○ 研究の成果（本報告書においては、インタビュー調査でのデータのみ扱っている） 本研究では、保育者8名へのインタビュー内容をもとに、「保育職の魅力」について検討した。保育者は、仕事を始めた当初に感じた理想と現実のギャップや失敗の経験を通して、子どもへの理解を深めていく過程そのものに魅力を見出していた。また、子どもの成長を見守る喜びや、日々を共に過ごす中で得られる心の充足感が、大きなやりがいとして語られた。さらに、保育は自由度や創造性の高い仕事であり、自分の得意なことや個性を活かせる専門職として認識されていた。加えて、保護者や地域、同僚との関わりの中で成り立つ点も、保育ならではの重要な魅力として挙げられた。一方で、時間の余裕のなさや人手不足、保育の価値を十分に発信できていないことなどの課題も指摘された。これらのことから、保育職の魅力は、子どもとの関係を土台としながら、実践の面、成長の面、そして人とのつながりの面が重なり合って生まれていると考えられる。また、経験を重ねる中で保育観や考え方が変わり続けること自体にも、専門職としての価値があるといえる。 ○ 今後の発展 調査研究で得られたデータを保育者養成課程の授業や保育者研修などで活用・発信することで、学生や現職保育者とのつながりを一層深め、保育の課題を解決できるように取り組んでいきたい。